

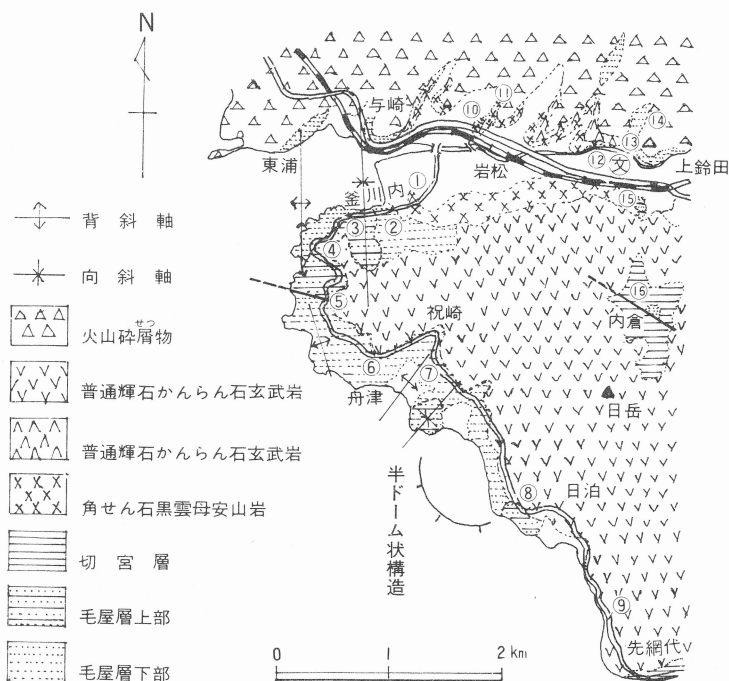
22. 大村南部の第三紀層と火山岩類

地 域	大村市与崎—先網代，岩松—二本松
交 通	国鉄大村線 岩松駅下車，県営バス 岩松または 二本松下車
地形図	大村（1/50,000），大村（1/25,000）

与崎—先網代コース 釜川内部落の入口の①で角せん石黒雲母石英安山岩が露出している。この石英安山岩は釜川内から東方の上鈴田にかけて、帯状に分布している。なお鈴田川の北岸にも点々と分布しているので、鈴田川流域に貫入した岩脈と考えられる。しかし、ほとんど浸食されていて分布が限られ、岩体も風化して茶褐色になっているため、原岩がはっきりわからないような場合もある。

釜川内バス停付近から道路ぞいに、古第三系の堆積岩が連続して露出する。②付近には毛屋層下部の白色中粒砂岩層とその上位の毛屋層上部の含炭層が連続して見られ、西に傾斜している。③では上述の毛屋層上部の含炭層が東に傾斜しているのが観察される。したがって②と③の間には向斜構造が考えられるが、傾斜角がかなり大きいところもあり、断層の影響もあると考えられる。③に見られる含炭層は3枚の炭層をはさんでいるが、いずれも薄く炭質けつ岩とも言える粗悪なものである。最近④付近の土地造成が進んでいるので、露頭が大きく、毛屋層上部の地質構造が観察され、良好な実習場所といえる。地層は中粒砂岩と泥岩・炭質けつ岩の互層で、けつ岩層から植物化石が産出する。⑤の市営焼却場上の道路ぞいの露頭で、白色中粒砂岩と泥岩・炭質けつ岩の互層を切る落差約10mの逆断層が見られる。

この地域の地層にはかなりの乱れがあり走向・傾斜が変化していることから、後の造構運動をかなり受けたことが考えられるが、さ



大村南部の地質図

らに火山岩類噴出の影響も受けていると思われる。

⑥の祝崎、舟津付近は白色細粒砂岩層が主に分布し、地層は西に傾斜している。⑦の蔦川内付近にも白色細粒砂岩層があって、ゆるい傾斜で東に傾斜しているので、⑥と⑦の間には背斜構造が考えられる。さらに祝崎南部の海岸付近には向斜構造が考えられる。

釘ノ頭から⑧の日泊にかけての道路にほとんど平行して堆積岩と玄武岩の境界線があるので、ところどころに玄武岩が露出している。⑨付近では玄武岩の溶岩流がかなりの厚さで見られる。

岩松一鈴田一内倉 岩松駅西の堀切り⑩に、岩松玄武岩が露出している。この岩石は周辺部が丸く一見石英に見える大きさ数mmの斜長石の巨晶を含んでいて特徴的である。小岩脈として貫入したものであろう。この露頭の北約200mの山腹⑪に、石英安山岩が高さ10数m、幅約30mの崖に露出している。この石英安山岩も風化が著しくさらに陶土化されて白色になっている。石英安山岩の上に安山岩質れきのれき層があるが、両者の関係は不整合と考えられる。

岩松から白鳥にかけての旧道ぞいに石英安山岩の露頭が点在する。いずれも風化が著しいが、鈴田小学校裏の対岸の鈴田川沿岸⑫ではかろうじて薄片作成できる程度のものが採集できる。露頭⑫から200mほど上流の橋付近の民家の横の崖⑬には断層による地層の引きずりが見られるが、しかし、これを褶曲の翼と解釈する人もあってはつきりしない。⑭付近は毛屋層の灰褐色細粒砂岩と泥岩の互層があり、砂岩には雲母片がかなり多く含まれている。ここの泥岩層からも植物化石が産出する。

二本松バス停の南方約200mの小松忠魂神社付近⑮に砂岩と泥岩の互層が見られるが、この付近に炭質けつ岩や薄炭層が存在するので、毛屋層上部と考えられる。しかし玄武岩におおわれていて分布がせまく、詳細は不明である。小松から内倉にかけては普通輝石・かんらん石玄武岩が広く露出している。この玄武岩は日岳・風観岳の玄武岩類と同質のものである。

内倉⑯には毛屋層最上部とその上に整合に重なる、灰褐色シルト岩からなる切宮層が、周囲を玄武岩におおわれて小区域に露出している。この切宮層は下部が矢上地域の侍石層に相当するもので、海緑石が含まれ、有孔虫や海生貝類化石を多産する。暗灰色の風化色を示し、玉ねぎ状構造の風化を示すのが特徴である。(小柳孝夫)